

2025.07.03 (木)

第 29 回川崎支部定例講演会開催後のご報告

川崎支部 支部長 山岸一雄

講演会日時：2025年06月28日(土) 14:00~15:30 (自由が丘クラブ)

演題：田園都市構想の街 『田園都市の街づくり』

講師：奥沢地誌保存会 染野 和夫 代表

(対面+Zoom) (参加者 13名-対面 11名 Zoom 2名)

(内 川崎 6名、東京 1名、如学会 1名、一般 3名、**在校生(新聞会) 2名**)

○奥沢地誌保存会 染野和夫代表による講演会が終了しましたので、ご報告します。

(別添え 説明資料を参照)

○ 講演の概要：

- ① 明治末期から都市化が進み、**人口が都市に集中**することで**住環境が悪化**した。
- ② 76歳で引退していた**渋沢栄一(北区王子に在住)**は、自然と都市が一体となる「田園都市」の構想を提唱し、会社の設立に動いた。
- ③ 渋沢が経済界同士に呼びかけ、1918年(大正7年)に**田園都市株式会社**(資本金50万円)を設立し、渋沢は相談役となった。**理想的な住宅地の条件は以下**になる。
 - ・土地高燥にして大気清純なること。 ・地質良好にして樹木多きこと。
 - ・面積少なくとも十萬坪(約33万平方メートル)を有する事。 ・一時間以内に都会の中心地に到着し得べき交通機関を有すること。 ・電信、電話、電灯、ガス、水道などの完整させること。 ・病院、学校、倶楽部等の設備あること。 ・消費組合の如き社会的施設も有すること。
- ④ 大正期の事業対象地は、丘陵地帯に畑や雑木林が、低地に田んぼが広がっていた。
- ⑤ 1922年(大正11年)9月、目黒蒲田電鉄が設立。鉄道事業の推進のため、**五島慶太**を**役員**として迎え、田園都市会社の鉄道部門を分離し設立された。
- ⑥ 洗足地区：。鉄道は未開通、畑地に碁盤状に道を付けただけでの予約販売。2年後には全ての区画完売。
- ⑦ 大岡山地区：大正13年(1924)1月、**東京高等工業学校(現・東京科学大学)用地**に。内務省復興局からの要請だったが、関東大震災で被災したm pで、同校の蔵前の敷地約1万2千坪と等価交換。
- ⑧ 多摩川台地区：開発に最も重点が置かれた地区で、住宅地と鉄道が組み合わせて開発された。買収地の内、住宅地として開発されたのは洗足地区と多摩川台地区の2地区。
- ⑨ **厳しい販売条件は以下**。
 - ・土地は住宅とこれに必要な附属の建物・庭園のみに用いること。
 - ・土地購入後1年6ヶ月以内に住宅を建築すること。
 - ・許可なく一区画の土地を分割しないこと。

等の条件が記され、さらに細かい規定として、㉗ 建物は3階以下。㉘ 建物敷地は宅地の5割以内。㉙ 住宅の工事費は坪当たり120円以上。

⑩ 田園調布の今後に、有効な対策は有るのか。

- ・ 緑豊かな理想的街づくりをめざした田園調布。高級住宅地維持に黄色信号。
- ・ 地価の異常な高騰、相続税、固定資産税、土地の細分化、庭木や生垣の減少、緑の減少。
- ・ 住民・行政による取り組み。田園調布憲章の制定、環境保全の申し合せ。

理想的住宅地案内

● 田園都市案内のパンフレット

- ・ 煤煙飛ばず塵埃揚らず！
- ・ 眞よ絶好の保健地！
- ・ 常住の避暑避暑地！



文化生活の滋味を望まる方は田園都市へ御住み下さい！

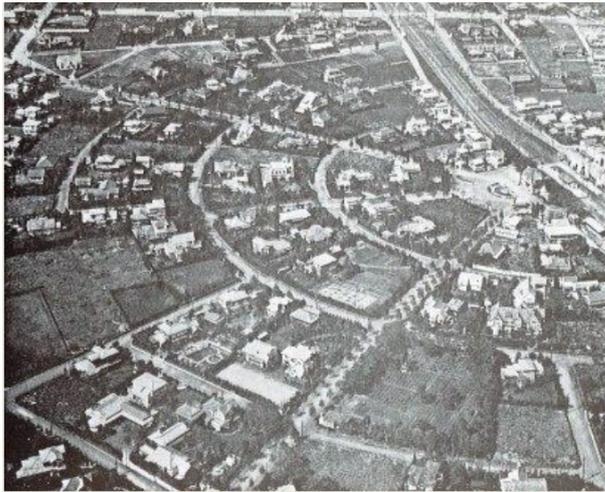
田園郊外の趣味を享樂し併て文明の施設を應用出来る地は他にありません。

機會は今です！何は兎もあれまず現場へ！

(田園都市案内にパンフレット)



開発以前の調布村（現・田園調布）付近（大正10年）



1932年(昭和7年)頃、田園調布駅を中心に放射状に延びる並木道



(講演内容の説明－染野代表)



(会場全景) (右端は新聞会2名)



(新聞会からのインタビュー) 以上